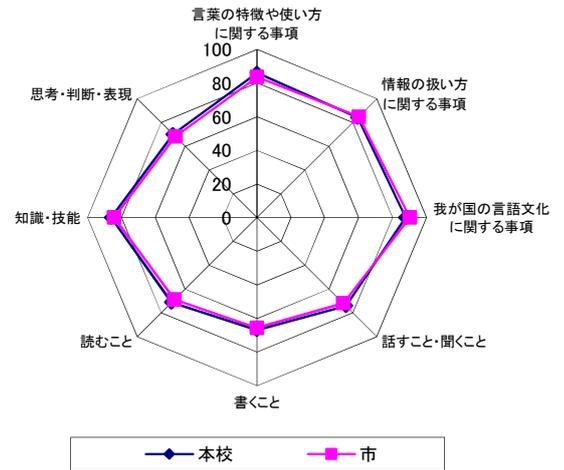


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	86.0	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	84.1	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	87.7	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	74.2	72.1	67.8
	書くこと	66.8	65.5	51.8
	読むこと	71.3	68.9	57.8
観点別	知識・技能	86.0	84.4	80.5
	思考・判断・表現	70.1	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

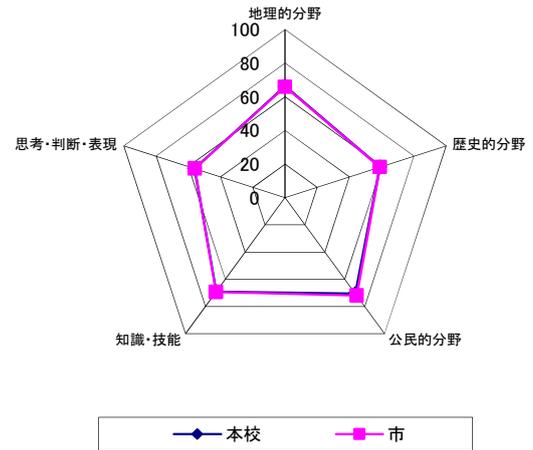
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を書く問題の正答率が市平均より高かった。 ●故事成語についての問題の正答率が市平均を下回った。類義語についての問題の正答率は市平均を上回っているが、正答率自体は低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては全体的に高い正答率であるため、今後も問題集などを活用した指導を継続していく。 ・故事成語や類義語などを単なる知識として暗記するのではなく、日常生活で使いこなしていけるように、短文作りなどを積極的に授業へ取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使う問題の正答率が市平均を下回った。	・文章中の情報と情報との繋がりを把握する力を身に付けさせるために、文と文、段落と段落の繋がりについて捉える学習を充実させる。 ・説明的文章においては、指示語や接続語などを確認させた上で、段落同士の関係性を矢印や図などを用いて整理して捉えさせる。
我が国の言語文化に関する事項	●現代語訳を手掛かりに古典を読む問題の正答率が市平均を下回った。	・古典文学の様々な文章に触れさせ、古文と現代語訳を対照することによって内容を正確に解釈できる知識を身に付けさせる。 ・現代語訳を手掛かりに、省略された主語を補いながら人物関係を整理し、動作の主体を正確に特定して古文を読み解く指導を継続的に行う。
話すこと・聞くこと	○話の展開を予測しながら聞く問題や、自分の考えを明確にし論理の展開を考えて話す問題の正答率が市平均を上回った。 ●発表の内容を聞き取り、自分の考えを表現する問題の正答率が市平均を下回った。	・ペアやグループなどの形態を工夫し、聞き取った内容を事実と意見に整理して聞き取る力を身に付けさせる。 ・聞き取った内容から自分の考えを形成し、表現するための型をいくつか示しながら書いて表現する活動を継続することで、文章構成力の定着を図る。
書くこと	○文章の構成を工夫する問題や、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書く問題の正答率が市平均を上回った。 ●自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫して紹介する文章を書く問題の正答率は市平均を上回ったが、50.3ポイントであった。	・文章構成の基礎力は身に付いているが、読み手に伝わる文章を構成する力に関してはさらに強化する必要がある。さまざまな読み手や目的を設定して書かせる機会を増やし、相手や目的を意識した文章を組み立てる力を養う。 ・ペアやグループでの相互評価を通して、自分の文章を客観的に見直して改善する機会を増やしていく。
読むこと	○説明的な文章の構成や論理の展開について評価する問題の正答率が市平均を5.3ポイント上回った。 ○文学的な文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもつ問題の正答率が市平均を4.5ポイント上回った。 ●説明的な文章の論理の仕方を捉える問題の正答率が市平均を下回った。	・文章全体の構成を捉える力は定着しているため、より深く内容を読み取る力を育む指導の充実を図る。説明的文章においては、文や段落が文章全体の中で果たす役割を検討する活動を適宜取り入れ、具体的な論理の技法を明確に捉えさせる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.3	66.0	57.8
	歴史的分野	58.9	58.9	51.4
	公民的分野	70.6	72.0	72.2
観点別	知識・技能	69.0	69.3	62.9
	思考・判断・表現	56.1	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

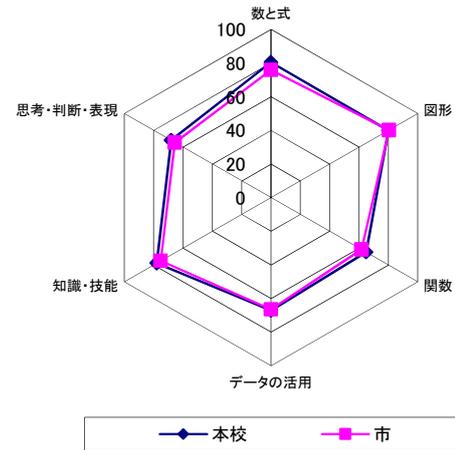
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○半分以上の問題で、正答率が市平均を大きく上回っていた。 ●「世界地図の見方」「日本の地形・貿易・農業」の問題は、正答率が市平均を下回った。また、記述の問題の正答率が低かった。	・基礎的、基本的事項の理解度を向上をさせるために、新たな単元でも関連する項目について既習内容を取り上げ、復習を図る。また、資料や図を読み取り、説明する学習活動を取り入れ、思考・判断・表現力の向上を図る。そのために、図や映像資料、ICTを活用し、関心を高めていく。
歴史的分野	○特に「金印」の問題は正答率が市平均を大きく上回っていた。 ●「金印」「公事方御定書」「江戸時代の政治改革」「明治時代初期の条規」の問題以外は、正答率が市平均を下回っていた。	・基礎、基本となる知識が定着できるよう、小テストを実施する。また資料や図の読み取りを丁寧に行うことに加え、人に説明する学習活動を取り入れ、資料活用 of 技能の向上を目指していく。
公民的分野	●「人権」の問題以外は、正答率が市平均を下回っていた。特に記述の問題の正答率が低かった。	・授業や小單元ごとに復習活動を取り入れ、基本的内容の定着を図る。公民は日常の生活に即した内容も多いため、身近な例を挙げるなど、生徒の理解や関心が高まるように工夫していく。また資料や図を読み取り、説明する学習活動を取り入れ、思考・判断・表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	80.5	76.0	69.0
	図形	80.0	80.5	67.7
	関数	64.8	61.6	55.0
	データの活用	67.1	66.5	56.4
観点別	知識・技能	77.8	75.1	69.4
	思考・判断・表現	68.1	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

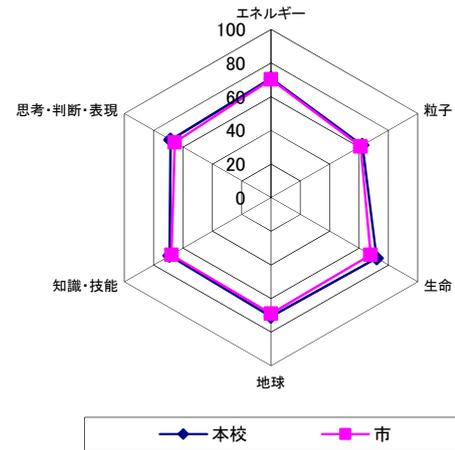
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○正答率が市を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○式の計算、式の展開、平方根の問題では市平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●乗法の公式を使って式を簡単にする問題の正答率が市平均より、7.6ポイント上回っているが校内の正答率が47.4ポイントと低い。</p>	<p>・引き続きワーク、プリント等を使い、授業中や家庭学習において、基本的な計算問題を数多く解くように促す。</p> <p>・公式を使った解き方のパターンを理解させ、授業中に繰り返し確認を行い、文章問題に対応できるようにする。</p>
図形	<p>○空間図形については、問12、13のおうぎ形の面積やねじれの位置の問題で市平均を上回っている。</p> <p>●平面図形においては、問14(1)(2)、15の図形の移動や平行線と錯角の性質の問題で市平均を下回っている。</p>	<p>・図形の移動では、対応する辺や角、対称の軸を確認しながら、ICTや実物を見せながら丁寧に指導する。</p> <p>・図形の面積や体積などの公式を利用した計算は、くり返し取り上げることで、技能の定着を図る。</p> <p>・複雑な図形の問題を扱うときには、どこの長さや角度がわかればよいのか、そのためにはどこの図形に着目すればよいのかを考えさせ、論理的な思考が身に付くよう丁寧に指導する。</p>
関数	<p>○正答率が市を3.2ポイント上回っている。</p> <p>○比例、1次関数の動点の様子を考える問題や、xの2乗に比例する関数の問題では、市平均より5ポイント以上上回っている。</p> <p>●比例、1次関数の比例の関係を答える問題では、市平均を4.5ポイント下回っている。</p>	<p>・関数の関係を理解するには、式・グラフ・表を関連させて考えさせることが必要である。授業で繰り返し取り上げて指導することで定着を図る。</p> <p>・比例、1次関数では、問題場面を y を x の式で表すことを丁寧に扱いながら、それぞれの関数の基本の式と照らし合わせて関係を捉えられるように、練習問題を多く解かせて定着を図る。</p>
データの活用	<p>○正答率が市を0.6ポイント上回っている。</p> <p>○箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明する問題では、正答率が市より5ポイント以上上回っている。</p> <p>●箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明する問題は、正答率が52.6ポイントと低い。</p>	<p>・データの活用については、度数分布表から、相対度数や四分位範囲など関連する用語をしっかりと理解し、繰り返し授業で取り上げることで、技能を定着させる。</p> <p>・箱ひげ図や四分位範囲などを根拠に、示された主張を説明できるよう資料の比較や数値の見方など、説明に必要なことを読み取れるよう丁寧に指導する。</p>

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.9	70.3	59.4
	粒子	62.2	61.1	56.4
	生命	72.0	67.9	62.7
	地球	70.7	69.1	65.6
観点別	知識・技能	69.0	67.9	63.8
	思考・判断・表現	68.5	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

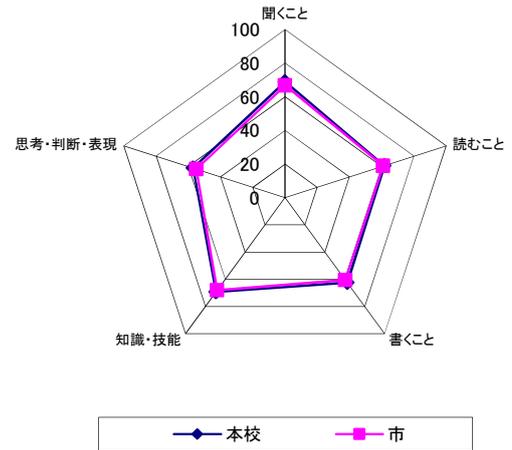
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○力学的エネルギーの保存について理解し、おもりの正しい振り方を指摘する問題では、市の平均を13.0ポイント上回った。</p> <p>●光の反射の法則についての理解を問う問題では、市の平均を7.2ポイント下回った。光の性質の内容はすべて市の平均を下回っており、苦手としている生徒が多いことが分かる。</p>	<p>・ICT機器を活用したエネルギー分野の授業を行ったことが理解につながったと考えられる。今後もICT機器を活用していく。</p> <p>・光の性質の正答率が低かったため、実験を通して作図をしたり、図示したりしてイメージをしやすいように指導していく。</p>
粒子	<p>○溶解度のグラフから、水溶液を冷やしていったとき、結晶が最も多く得られる水溶液を分析する問いでは、市の平均を7.4ポイント上回った。</p> <p>●より多くの酸化銅を得るために、銅の粉末をかためて置く方法が適さない理由を問う問題では、市の平均を4.7ポイント下回った。</p>	<p>・なぜそのような操作が必要なのか考えさせる時間をとり、実験に対する理解につなげていく。</p> <p>・計算して解く問題については、基礎的な計算方法から確認し、問題演習を授業に取り入れていく。</p>
生命	<p>○子の代の種子の遺伝子の組み合わせを答える問題では、市の平均を8.4ポイント上回った。</p> <p>●葉の表側にワセリンをぬった植物がどこで蒸散しているのかを指摘する問題では、市の平均を2.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的・基本的な考え方や用語についてはよく定着しているので、問題演習を授業に取り入れていく。</p> <p>・比較実験を行う際には、実験操作とその目的について考えさせるようにしていきたい。</p>
地球	<p>○マグニチュードと震度の意味を問う問題では、市の平均を5.7ポイント上回った。</p> <p>●等圧線について解答する問題では、市の平均を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的・基本的な考え方や用語についてはよく定着しているので、問題演習を授業に取り入れていく。</p> <p>・天気図については実際に天気予報をさせるような活動を取り入れるなど、学習したことを具体的に活用できる場を設けて知識の定着を図りたい。</p>

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.9	66.8	61.5
	読むこと	61.7	60.9	55.5
	書くこと	62.6	60.5	50.9
観点別	知識・技能	69.3	68.1	64.1
	思考・判断・表現	57.1	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○リスニング問題のうち、その内容を理解して、英文の内容に合う絵を選ぶ問題は市の正答率を上回っているものが多い。対話を聞く問題と日常的话题の問題も、市の正答率を上回っている。</p> <p>●リスニング問題のうち、英文の内容理解や、対話文の応答の問題の中で、要点を捉えて自分の考えを記入する問題は市の平均を0.7ポイント下回っている。</p>	<p>・語句や英文の発音と意味を正しく定着させる。</p> <p>・さまざまな場面で使われる表現の定着を図る。</p> <p>・ペアや、グループ活動等の内容を工夫し、さまざまな状況に応じて聞き取ったり、話したりする力をつける。</p>
読むこと	<p>○語形・語法・語彙の知識・理解の問題において、市の正答率を上回っている。</p> <p>●さまざまな英文を読み取り、適切な資料を選ぶ問題では、市の平均を下回っているものがある。</p>	<p>・内容理解の力を養うため、TF問題やQ&Aなどをより多く行う。</p> <p>・ある程度の長さの英文を読む機会を増やし、読むことへの意欲を高める。</p> <p>・英文を読む意義を再確認し、長文の概要を捉えることへの苦手意識をなくすように丁寧に指導する。</p>
書くこと	<p>○書くことの問題では、単語の並べ替えによる英作文や、3文以上の英作文が市の正答率より上回った。</p> <p>●場面に応じて書く英作文は市の平均より上ではあるが、50%に達していない。</p>	<p>・自分の考え等を英文で表現したり、対話活動の中で、自分の気持ちや考えなどについて話したりする活動を多く取り入れていく。</p> <p>・わからない場合でも、まず間違いを恐れず、知っている語や表現を用いて書いてみるように、日頃から心がけさせる。</p>

宇都宮市立横川中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定期テスト前の学習計画表の作成と振り返り活動の実施	・学習計画表を生徒に配り、定期テストに向けて計画的に学習に取り組めるよう目標や計画を立てさせる。テスト返却後に計画を振り返り、次の学習への取り組み方に生かし、次の定期テストにつなげさせる。	「テストで間違えた問題は、もう一度復習している」という設問に対する肯定的回答は、本校全体の平均が70.6%で、市の肯定的回答の割合を1.1ポイント上回っている。学習計画や振り返りにもとづいてテストの振り返りを行っている生徒が多いことが分かる。
全学年で統一した自主学習の実施	・自主学習ノートの使い方や取り組む内容などについて全学年同一歩調で行っている。 ・提出されたノートの確認について担任だけでなく、副担任や学年主任も加わり、複数の目で確認するようにしている。	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」という設問に対する肯定的回答は、学校全体の平均が71.5%で、市の肯定的回答の割合を1.4ポイント下回っている。自主学習で授業の内容を復習する習慣を身に付けさせていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎的・基本的な知識の定着において、多くの教科で、基礎的な知識・技能に関して市平均を上回る良好な正答率を示している。例えば、国語の漢字の読み書き、数学の基本的な計算や公式の利用、理科の基本的な用語や考え方、英語の語彙・語法や単語の並べ替えなどが挙げられる。本校は市平均を上回る高い学力水準と言える。社会の一部領域を除き、多くの教科において市全体の平均正答率と同等、あるいはそれを上回る傾向にある。特に数学や理科、英語では、特定の設問で市平均を大きく上回る項目が見られる。ただし、「思考・判断・表現」に関わる記述力は不足している。全教科を通じて最も顕著な課題は、自分の考えを論理的に整理し、文章や記述で表現する力である。基礎知識はしっかり身に付いているが、それを活用して論理的に説明したり、複数の情報を組み合わせて考えたりすることにさらなる伸びしろがあると言える。